

3-2					
主題		インフルエンザ発症ゼロを目指した感染症対策の取り組み			
副題		認知症の方をインフルエンザから守る			
キーワード 1	感染症対策	キーワード 2	インフルエンザ	研究(実践)期間	6ヶ月
法人名・事業所名		社福) 至誠学舎東京 吉祥寺ナーシングホーム			
発表者(職種)		速水亮一(介護職員)、中村秀明(介護職員)			
共同研究(実践)者		阿紀子(介護主任)他			
電話	0422-20-0800	FAX	0422-20-0806		
事業所紹介	当法人は 2012 年で創設 100 周年を迎えました。これからも地域の方々とともに創る福祉をめざしていきます。吉祥寺ナーシングホームは、平成 6 年 12 月より事業を開始している入所定員 50 名、短期入所定員 3 名の特別養護老人ホームです。				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>例年、インフルエンザの予防接種はほぼ 100%実施しています。平成 29 年 12 月頃から数人のご利用者から咳や鼻汁などの風邪症状が出始めた為、安静の促しや食事・日常生活において他のご利用者との距離をとる対応を実施しました。しかしご利用者の中には理解を得られず、すぐにマスクを外してしまう・仲の良いご利用者のそばへ移動してしまう等が頻繁に見られました。その結果、ご利用者 17 名、職員 7 名がインフルエンザを発症してしまいました。結果的にフロア全体が対処に追われ、ご利用者につらい思いをさせてしまいました。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>ご利用者へ風邪症状の蔓延を防止する事はご利用者自身の生活を制限してしまう為、理解して頂く事が難しいケースがありました。また、風邪症状者を一括りに隔離して対応するも、しきれなかった事が、インフルエンザ発症者蔓延の要因となったとも思いました。</p> <p>以上のように、風邪対策によるご利用者の日常生活の制限や身体への負担、職員はそれに対する付帯業務の増加に追われてしまう結果になってしまいます。その為、感染症対策を徹底し、風邪を未然に予防することが重要であると認識しました。</p> <p>これまで、ホームでも毎年感染症対策として、手洗いや手すり・テーブル等の消毒を実施していましたが、今回多くの発症者が出たことで、対策は不十分であると思い、見直すことにしました。そこで、当ホームご利用者の生活状況をみていると、床に直接、または間接的に触れている状況をよく目にしました。また、特に車椅子を自操するご利用者は最も顕著であり、職員もフットサポートの上げ下げ等で、間接的に触れています。当ホームは土足であり、すぐには解消できないいくつかの問題があります。感染症対策の研修を受講した際、インフルエンザ対策において、原則的に床の消毒は不要だが、状況に応じて必要な場所は清掃を徹底することが求められると言わ</p>					

れましたが、一昨年度以前は特に対策は実施していませんでした。昨年度の感染症対策はご利用者や職員が間接的に触れる箇所も消毒する範囲に入れ、インフルエンザや風邪の予防に取り組みました。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・1日2回の手すり消毒を4回に増やす。
- ・職員及び、面会者・外来者へ入館前に手指消毒とマスク着用、靴裏の消毒の協力を仰ぐ。
- ・ご利用者の食事前の手洗い・手指消毒。
- ・食事前の車いすのアームサポート・ハンドリムの消毒
- ・床の消毒（同じ場所は2度拭きしない事を徹底する）：1日2回
- ・トイレ内の手すり・ひじ掛けはご利用者が使用の度に必ず消毒する。
- ・空気清浄機付き加湿器を導入。
- ・施設内の換気扇は常時稼働させつつ、窓を開ける換気については過度な寒暖差が生じないように留意しながら、ご利用者が過ごしやすい環境にする事に重点を置く
- ・正面出入口・ステーション出入口に消毒マットを設置する。
- ・発症者が出た場合、症状により対応策を決める。

《4. 取り組みの結果》

平成30年12月から平成31年3月まで実施。

インフルエンザ発症者：（ご利用者）一昨年度17人⇒昨年度0人

（職員）一昨年度7人⇒昨年度0人

上記の数値を見る限りでは、実施期間中に取り組んだ内容については、ある一定の効果があつたと推測できます。また常時鼻汁が見られるご利用者が昨年は殆ど症状がありませんでした。

《5. 考察、まとめ》

昨年度、当ホームでインフルエンザ発症者は出ませんでした。どの対策が効果的であったかは推測の域を出ませんが、職員や面会者へのインフルエンザ・風邪予防に対する意識や理解は深まりました。しかし、一昨年度に比べて消毒の回数や範囲が広がった事で、大変との意見もありました。インフルエンザを予防する事が大切であるので、日常業務への感染症対策を流行期前から組み込み、徐々に定着させる事とフロアの土足解消が今後の課題と考えました。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

1. INFECTION CONTROL 2016年夏季増刊 2016,39
2. 冬季における有効な加湿方法（東京都多摩府中保健所HPより「高齢者福祉施設等における感染症予防のための環境衛生管理」）
3. 国立感染症研究所 感染症情報センターHP
4. INFECTION CONTROL 2018年夏季増刊 2018,60-61

《8. 提案と発信》

細菌やウイルスは見ることができない為、今回の取り組みが必ずしも有効であるとは言えません。しかし、結果的に毎年発症していたインフルエンザを予防する事ができ、同時に現場の職員の負担が軽減し、利用者のケア向上につながったと考えています。